

教職課程センターだより 第29号

発行日 2023年3月23日

巻頭言

授業以外に教師が児童・生徒に話すとしたら・・・

教職課程センター長 曲田浩和

学校現場では思いのほか空白の時間があります。スポーツ大会などの学校行事が始まる前の準備の時間や、朝のホームルームの連絡事項の終わったあとの時間など、さまざまな場面です。

30年以上前のことですが、教育実習中、受け持ちクラスの担任の先生や科目指導の先生が、私に授業以外に生徒に話す機会を作ってくれました。大学時代のアルバイトのことや大学の学びについて話しました。

私に与えられたのは、高校2年生を対象にした1限(50分)でした。大学の学びでモノの見え方が変わったことを話しました。「犯罪をなくすためにどうするか」と高校生に問いました。警察官を増やす、防犯カメラをつけるなどの意見が出ました。私が「法律学」の授業で学んだことは、社会にとってよいかどうかは別ですが、犯罪を無くすには法律を無くすことがもっとも簡単な方法だということです。つまり、罪や刑は法律に基づいて決まります(罪刑法定主義)。情に流されて罪や刑が決まるわけではありません。高校生時代には思いつかない発想だったので、大学の授業の面白さを感じました。大学の授業を通じて多角的にモノを見ることができるようになったことを、自分の経験に基づいて話しました。そのあと、本題の「赤穂浪士の討ち入り」について展開しました。

経済学部では、学生が「生徒に伝えたいこと」を5分間で話す取組みを行っています。話す内容は自由です。ただし、中学1年生から高校3年生の6年にわたる生徒に対して、それぞれ話す内容や話し方も変わってきます。そのため、話す前にどの学年に向けた話しをするのかを、言ってもらうようにしています。

高校2年生の生徒に向けて、自身の経験を踏まえて、「将来の進路をどのように考えるとよいのか」を話す学生がいました。進路を考えなくてはならない高校2年生に少しでもヒントになればという思いが込められています。「さつまいもを摂取するとなぜ体に良いのか」は、「食欲の秋」に季節の旬に合わせた豆知識と食べる楽しさを伝えてくれます。登校中に見つけた亀から「外来種による生態系の変化」を生徒に考えてもらう話もありました。なかには、「脳死について」を話す学生もおり、朝のホームルームでは重すぎる話題ではないか、などの意見も出ました。

話題の持ち方によって教師の個性が出ます。教育実習に行く前に、5分、15分、30分、50分の話す内容を準備しておくといよいです。これからすぐに50分話してくださいということはないと思いますが、5分、10分は突然きます。実習担当の先生から10分の話をしてほしいと頼まれたら、15分の話も10分にするなど工夫することも必要です。

日ごろから話題を思いついたらメモをするなど、話をストックしておくといよいでしょう。児童や生徒の受け止め方を想像しながら考えるのも楽しいものです。児童・生徒の反応を意識し、実際に感じる事が、先生としての成長につながるでしょう。



ステップアップ講座に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科3年 神谷好香

○参加した目的

私がこの大学に入学した理由は教員になりたいからである。しかし、教員になるにはどのような対策をすればよいのか分からず、具体的な対策をしてこなかった。たまたま学内掲示板でステップアップ講座の案内を見つけ、少しでも情報が欲しかったので参加した。

○参加して勉強になったこと

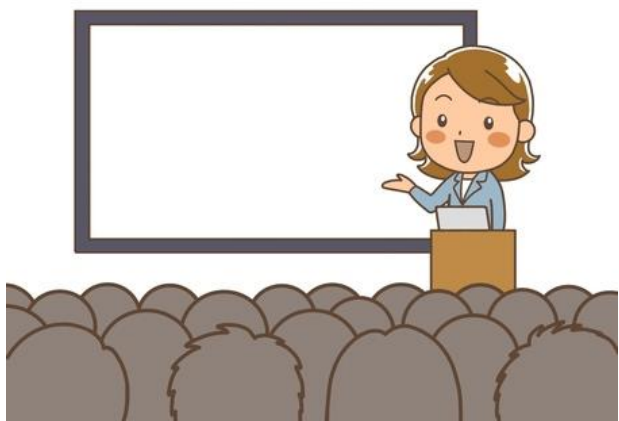
本講座は教員採用試験の説明と大学の先生方との面接練習を行われた。教員採用試験の説明では、具体的な参考書の紹介等、どのような対策をすればいいのか細かく説明があった。

試験対策に役立つ学内ツールについて紹介しており、それらを生かしてみたいと考えた。また、自治体によって筆記試験の出題範囲や試験形態、配点が大きく変わっていることもあるため、相当な勉強量が必要だと知ることができた。それを知って私は、自分で勉強する時間を作ることが合格を左右すると感じた。どうしても試験の対策についての説明は「勉強して努力をなさい」という根性論で終わってしまうことが多いが、この本講座の説明では、具体的な対策方法を挙げて説明していたので、勉強が苦手な人や勉強の仕方が分からない人にはおすすめだと考える。

面接練習では、4、5人のグループに1人の大学の先生方に指導していただいた。事前に質問が提示されていたので、それを中心に行った。私は当時高校生の時に使っていた入試用の面接ノートを事前に確認して、面接練習に挑んだ。この面接ノートには教員になりたい理由やどんな教員になりたいのかという質問に対し、その質問の答えを文章にしてまとめていた。そのため、面接練習では、そこまで苦労はしなかった。とはいえ、担当の先生は、「こういう言い換えがあるよ」等、私の伝えたい内容を整理してくれたり、一人ずつの面接の答え方に丁寧に指導してくださった。

○今後について

本講座で知った対策の仕方を実際にやってみることが大事だと思った。まずは、勉強する習慣を作ることから始めたい。私はいきなり長時間勉強することは難しいので、まずは1時間、2時間と勉強する時間を伸ばしていきたい。その中で、膨大な出題範囲や試験形態等に備えていくことと、学内ツールを生かしていきたい。面接練習では、大学の先生方、友人に指導をお願いしていきたい。また、私は片頭痛持ちで体調を崩しやすいので、体調管理をしっかりしていきたい。体調が悪くないと勉強しても頭に入らないので、私の中で体調管理は重要だと思っている。このように、私は合格を目指していきたい。





合格体験報告会に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 猿田東洋

○参加理由

私がこの報告会に参加しようと思った理由として、採用試験に向けてのモチベーション向上や不安解消を理由として参加しました。勉強自体は過去問を解いたり、対策講座に参加したりと、少しずつ始めていました。しかし、いざやってみるとどこを重点的にやれば良いのか分からず、解けない部分もあったため不安になってしまうこともありました。合格体験を聞くことで先輩方の勉強方法等からヒントを得られるのではないかと思います。また、私が受験しようとしている自治体を受けた先輩がいれば、面接や実技のことなども聞けるのではないかと思います。参加しました。

○実際に参加してみた感想

最初の全体での報告では、先輩方が受験までどのように過ごしていたのか、どのくらい勉強したのか等を詳しく聞くことが出来たため、とても参考になりました。報告の中に実際に使っていた問題集などを詳しく報告してくださった先輩もいました。過去問自体はもっていたのですが、新しくもう一種類問題集や参考書がほしいと考えていたのでとても参考になりました。また、実際に問題を解くだけでなく、面接でどのようなことを聞かれたのか、その対策について、結果はどう届くのか等の細かいこと、今まで気にしていなかったことまで知ることが出来ました。また、どの先輩も、まだ間違えても大丈夫だから繰り返し解くことが大切、ということをおっしゃっていました。勉強面などで不安な部分も多かったのですがこの言葉を聞いて、心が少し軽くなったと同時に、これから頑張ろうと思いました。

自治体、校種に分かれての質問は、私が受けようと思っている自治体に合格した先輩がいたので、その方の話を聞いたり質問したりしました。一番気になっていたのは実技試験や面接の対策です。特に実技試験の内容や対策について分からないことが多かったため、色々聞けたので良かったです。また、筆記試験もどの項目が大切なのかも聞くことが出来たので良い機会になりました。

○今後どうしていくか

この報告会に参加して、今までの不安が解消されました。またこれからの試験勉強や日常生活を見直していく必要があると感じました。試験まで半年を切っていますが、5月下旬からは教育実習があり、その期間は勉強に多くの時間を割けないことを考えると、これからの時期は1日1日大切にしていかなければいけないと感じました。今回の先輩方の報告を参考に、試験勉強や対策を進めていきたいです。



教員採用試験合格体験報告会に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 本田優介

○教員採用試験合格体験報告会に参加するまで

「数年後の自分は一体どこでなにをしているのだろう」

普段の大学生活を送るなかで、きっと誰しもが考えるそう遠くはない卒業後の未来について、私はこれまで漠然とした不安を抱えながら日々を過ごしていた。教育学を専攻としていることもあって、卒業後の進路は教職の道に進む人が大半であることは認識しながらも、自分には到底務まらないだろうと考えていた。だが、教育実習のなかで教職でしか味わえないような尊い経験をし、教職の道に邁進していきたいという志を抱くようになった。

そんな私にとって、いや教職を志すすべての者にとって超えなければならない大きな関門が教員採用試験だ。前述したように、私は教育実習後に教員を志すようになったこともあって、その全体像が中々見えてこなかった。インターネットを通して発信されているような最低限の情報は得ることができていたものの、それには当然限りがあり、ちょっとした疑問が湧き上がってきても解決されることはなく、その度そのままスマホを閉じるのが常だった。「実際に教員採用試験を受けた方々に直接話を聞いてみたい」そう思い立っても、コロナ禍で活動が制限され続けてきたこの3年間の大学生活のなかで、そんな人脈は私にはなかった。

○教員採用試験合格体験報告会との出会い

そんなとき、本学の掲示板で「教員採用試験合格体験報告会」という催しがあることを知った。教員採用試験の知識、情報を生の声から得たいと考えていた私にとってこれ以上ない恰好の企画だった。そうして実際に参加をし、先輩方の経験談を聞くことができた。それも4名もの方々からお話を聞くことができた。その話の内容は「教員採用試験に向けての学習法」や「面接についてどのように対策を講じたのか」というものが主であったが、それも三者三様であり、確立されたような正攻法などはなく自分に合った学習法、対策を講じることが何よりも重要であることが分かった。4名の先輩方の合格までの道程は、多様ではあったものの皆さんが口々に仰っていたのは「しっかりやれば受かる」という言葉だった。その言葉は私に希望を持たせ、先行きの見えない将来に対する不安を吹き飛ばしてくれた。

○来年は自分もあの場に

教員採用試験合格体験報告会に参加して、最も印象的だったのが表情、立ち居振る舞いが自信に満ち溢れていた先輩方の姿だった。本当に輝いて格好よく見え、私も1年後はあんな先輩方のような姿になって、ついこの間までの自分のように心に不安を抱える学生に希望を持たせるような存在になりたいと強く思った。そんな新たな目標にも向けても、突き進んでいく。



合格体験記（静岡県・和歌山県 特別支援学校）

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 中村光希

1. 受験対策・勉強法について

私は、3つの都道府県を受験しました。そのため、勉強自体は3年の2月からと遅めのスタートではあったのですが、「まず基礎を覚えよう」ということで、全国でもよく頻出されている問題や法律を抑えて、範囲も広いということから教職教養から行いました。教職教養では、「教職教養よく出る過去問224」という教材を3周行いました。2回目、3回目で間違えた問題があれば、チェックをつけ、簡単にノートにまとめて復習を行い、1、2週間をあけてもう一度行いました。3つの自治体を受けたこともあり、教科の内容としては、保健体育、特別支援、教職教養、一般教養の4つがあったため、2月から基本的に1か月で1つずつマスターして、6月末にある最初の受験に間に合うように計画をして日々勉強していました。勉強法としては、主に基礎を覚えてから、その自治体の過去問を解くということを繰り返し行いました。

私は、法律を覚えるのがとても苦手だったため、はじめたての教職教養で何度もつまづきましたが、はじめは1週間に一度勉強をしない日を作り、その楽しみを目標に毎日行うようにしていました。4月や5月になってくると実習もあるためなかなか外で遊ぶのが難しかったこともあり、月に1、2回自分に甘えても良い日を作り、休みの日にはほとんど休むことと勉強の事を考えないということを意識しました。毎日慣れていない勉強ばかりやっているとストレスもたまりますが、体を動かすことや動画を見ることなどでオンとオフの切り替えを明確に意識して行いました。

2. 実際、受験してみて得られた知見や特訓、後輩へ伝えておきたいこと

実際に受験してみて、過去問が全てではないと思いました。過去問をやっていたらその自治体の問題の癖や特徴がわかり、はじめはそれに合うように勉強していましたが、実際に受けて見ると今年から問題の特徴が変わった自治体も多くあり手応えがつかめない自治体や逆に手応えのあった自治体もありました。一次は、基本的に筆記試験のみのところばかりであったため、とにかく一次をまず受かることを目標に努力しました。二次試験となると面接や小論文、実技など様々な試験がありました。基本的に面接は圧迫ではないですが、反応をあまりしてくれないという印象が多くありました。

特に二次試験では、講師経験の方がほとんどでとても緊張し、集団面接では、私以外全員講師経験者で経験について語っており、自分の経験のなさや一般的な話で「もう無理だ」と挫折しそうに何度もなりました。しかし、逆に言えば経験していないが故の視点を持って、わからないことはわからないときっぱり言える自信を持って取り組むことを私はおすすめしたいと思います。



合格体験記（福岡県・北海道 小学校）



子ども発達学部 子ども発達学科4年 角野龍一

私が教員採用試験において意識したことは、自分でも受かる可能性のある自治体を探すことです。意識した理由として、愛知県や名古屋市など倍率の高い自治体は私では受からないと何となく感じていたためです。しかし、私は教師になりたい、そう思ったため前年度の倍率や今年度の募集人数を把握しおおよその倍率を予測しました。そこで受かる見込みがあった自治体を受験し、合格したのが北海道と福岡県でした。

私は1次試験対策を教員採用試験が行われる2ヶ月程前に本腰入れはじめたので時間がなかったように思います。1次試験対策としてはとりあえずできない所をカバーすることが私には必要でした。そのため高得点をたたき出すような勉強ではなく5割程を目標に勉強を進めました。つまり「浅く広く」行うことで勉強ができないなりに効率的に行うことができたのではないかと思います。

2次試験対策では、大学の先生方に必要なポイントを聞き出しながら重要であるポイントを抑えました、特に受験する自治体の教育目標などの面接のその場で考えても絶対に答えることができないところは事前に用意する必要があると思います。逆に言えばその他の持論はその場で展開することも可能だと思います。私自身、事前に作られた面接の展開よりも、自分自身の考えを自分自身の言葉で面接官に発信したかったのでできる限り自分自身の考えや、教育に関わる覚悟、教育に関わりたい熱意を伝えることを意識して面接に臨みました。

はっきり言って面接は普段のコミュニケーション能力や人見知りが大きく左右すると思っています。私自身普段のコミュニケーションや人見知りは無いと言ってもいいくらい社交的だと思います。この点において少しでも不安がある場合は、大学内や特に多くの人と関わることのできるアルバイトでは積極的にコミュニケーションを他者と図り、知らない人とも明るく笑顔で話すことを意識すれば徐々になにか見えてくるのではないかと思います。

これらのことは大半の後輩にとっては参考にならないとは思いますが、もし私のように勉強が苦手だけど子どものことが大好きで教師になりたいと考えているのであれば目を通していただくと嬉しいです。





合格体験記（名古屋市・高校福祉）

社会福祉学部 社会福祉学科 2020年度卒業 田代陽子

日本福祉大学を卒業後、私は今、愛知県立の高等学校で常勤講師として勤務し3年目になります。常勤講師として日々勤務する中で、今年度名古屋市の教員採用試験を受け、合格することができました。

常勤講師として勤務しながらの勉強は大変でしたが、今勤務している学校の先生方や生徒との出会いは一生ものです。これまでの講師経験は私自身に自信をつけ、私を成長させてくれました。

1 試験対策のしかた

教員採用試験に向けて、勉強を本格的に始めたのは3度目の教員採用試験を落ちてから、すぐです。

平日は、朝早く学校へ向かい、6:30から1時間半程度、授業後は部活動指導や補習を終えてから、遅い時（集中力が保てる時）は、20:30頃まで勉強していました。帰宅後もテキストを見たりする日もあり、、、かなり体力勝負だったのを覚えています。それでも！どうしても！睡魔や疲れに打ち勝てないときもあります。そんな時は、素直になって体を休める日もありました。焦る事もありましたが、自分にとって最適な勉強方法を見つけるのが、合格への第一歩です。

2 筆記試験【一般教職教養・専門教養】（1次試験）

名古屋市の一般教養は本音を言ってしまうと、対策がかなり難しいと思いますが、時間をかけて対策していくのが大切です。教職教養については、過去問を購入して1日1年度ずつ解き、その繰り返し。時事問題や過去に出題された内容は、ネット・新聞で調べて対策を積み重ねました。

特に勉強に力を入れたのは、専門教養です。専門学科である福祉科の過去問は、一般には販売されていませんが、庁舎で印刷可能なため、手に入れることができます。私は過去問を印刷し、何度も繰り返し解き続けました。また、名古屋市の専門教養の出題形式はすべて記述式です。授業で使用する教材のすべて、細かな部分まで頭に叩き込みました。学習指導要領にも目を向け、学習しました。「もし私が試験の出題者なら、ここを出すかな。」等考えながら学習していました。筆記試験対策は、受験する自治体の問題形式を把握したうえで対策することが最優先です。

3 面接【集団面接・個人面接】（2次試験）

面接に向けて対策したことは、ノートにひたすら自分の経験や教員への志し、思いを書き連ねたことです。強い意志を持つ者が面接に打ち勝つと思っています。面接は緊張しますが、自分の気持ちを素直に、面接官へ率直に伝えることが大切。そのために、自分の考えを頭の中で整理整頓し、準備を怠らないようにすると合格に結びつくと思います。

4 これから教員採用試験に挑む人へ

私にとって、試験に合格できたのは、日々の努力の積み重ねだと思っています。そして、周りの人の支えがあってこそ「合格」です。周りに居て支えてくれる・応援してくれる人の想いを胸に、努力することが合格へのスタートラインです。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。応援しています。





人との関わりが自分を育てる



子ども発達学部 子ども発達学科 2020 年度卒業
愛知県小学校教諭 高橋沙萌

私は大学を卒業後、小学校に勤務し始めて2年を終えようとしています。学生の皆さんの中にはきっと、4月から学校現場で働くことに不安を抱えている方も少なくないと思います。私も思い返せば勤務を始めた1年目は分からないことの連続で、不安が付きない毎日でした。

そんな私が今、楽しく現場で働くことができているのは、たくさんの人との関わりを大切にすることで、少しずつ自分の成長に繋がれたからのように感じます。

初めは何をするにも遠慮してしまうと思います。私もそうでした。しかし、「知らない、分からない」というのは不安で怖いことでもある一方、「知らない、分からない」からこそたくさん聞けば良い、チャレンジして失敗して学べば良いのです。ある意味、1年目は怖いもの知らずなのです。

私は授業後の職員室での時間を大切にしていました。子どもたちを帰し少しほっとできる時間です。そこでたわいも無い話とともに今日の出来事を振り返り、情報共有をしています。疑問に思ったことは質問したり、思いついたことを提案したりする中で、貴重なアドバイスをいただくことができます。

何でも相談できる存在をつくることで、こちらからの質問だけでなく、自然と先生方からアドバイスをいただける関係になれます。また、いただいたアドバイスは素直に受け止めて、そこから学級経営や指導方法を学び、生かせる部分は自分らしさもプラスして最大限に生かすことで感謝を伝えられるように心がけました。

そして、何か問題が起きたときも一人で抱え込まないように意識していました。起きた問題を報告し、自分が起こそうと思っているアクションが正しいかどうか確認することで今後の指導方針の確認も取れるため、自信をもって明確な指導をすることができます。

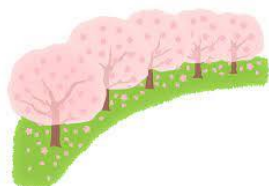
そのように過ごしていると、半年ほど経った頃には不安も少なくなり、教師としての自分の力が向上したように感じました。タイトルにも書いたように人との関わりが今の自分をつくったのだと思います。

自信をもって子どもたちと関わると毎日が楽しいです。先生が楽しそうにしていると、子どもたちも安心してついてきてくれます。子どもたちが安定すると保護者も安心してくれます。担任、子ども、保護者のよい関係性ができます。ここでもまた、よいつながりが生まれ指導も入りやすくなります。

学校現場は自分一人の力では円滑にまわりません。たくさんの人とのつながりを大切にし、生かせるかどうかは自分次第だと思います。これから教壇に立つ皆さんもぜひ、素直さ、熱意、感謝を忘れず、人との関わりを最大限に生かして成長し続ける教員でいてほしいと思います。私自身まだまだ教員として駆け出しですが、子どもたちからも保護者や地域の方からも、そして同僚からも信頼される教師を目指して努力を続けたいと思います。



教員としての1年目を振り返って



国際福祉開発学部 国際福祉開発学科 2021年度卒業
愛知県中学校教諭 杉山和斗

1. はじめに

私は2021年度に日本福祉大学を卒業し、昨年4月から愛知県内の中学校に勤めています。この1年を振り返って私が感じたこと、気付いたことをまとめます。在校生のみなさんの参考になれば幸いです。

2. 右も左も分からなかった4月、5月

1年生の学級担任を任せていただきましたが、赴任して最初の1、2か月は何が何だか分からないまま過ぎていきました。自分の仕事、次の日までにやるべきことなど、さまざまなことを覚えるのに必死でした。また、分からないことを誰に聞いたら良いか分からない、そんな日々が続いていました。しかしあるときから、「1年目だから分からなくて当たり前」と割り切って周りの先生方に手当たり次第聞くように心がけました。むしろ1年目だからこそ、色々なことを聞いて学ぶチャンスだと思ったのです。学校業務のことだけでなく、学級経営のコツや授業づくりのヒントなどたくさんの方のアドバイスをいただきました。周りの先生方のおかげで忙しくも充実した日々を過ごすことができたように思います。

3. 授業づくり、生徒との関わりに力を入れた2学期

「授業は仕込みが8割」この言葉は私の指導教官の言葉です。授業のよしあしは授業に向けてどれだけ準備したかで決まるということです。今思えばこの言葉を常に意識して授業づくりをしてきた1年だったように思います。英語が苦手な子の興味関心をひくスライドや、生徒を飽きさせない課題プリントの作成など授業準備を工夫しました。授業準備を入念にしたことで、クラス全体を見る余裕が出てきました。教壇に立つだけでいっぱいになっていた4月に比べ、生徒一人一人の実態を把握し、生徒との関わりに時間を取ることができるようになりました。

4. 「先生になって良かった！」と思えた出来事

先生になって良かったと思えた出来事を紹介します。私の担当するクラスには、簡単な英単語の読み書きが全くできない生徒がいました。1学期当初「英語が楽しくない」と廊下で泣いていたのを覚えています。分からない苦しさから英語の楽しさを感じられないのだろうと考えました。私はこの生徒の「分からない」を「分かる」に、「楽しくない」を「楽しい」に変えようと自身の授業、そして生徒と向き合い続けました。読めない単語には読み仮名をふり、書けない単語は何度もノートに書くよう指示し、教科書の基本文を自分の好きなことや趣味に置き換えて書くよう勧めました。2学期に入り、生徒に変化が見られました。小テストなどでのスペルミスが減り、めきめき点数が伸び始めたのです。生徒は努力を続け、今では学年でもトップ30に入るほどになりました。授業中の表情も明るくなり、音読やアクティビティでクラスを引っ張る存在になりました。そんな姿勢が周りの生徒へ影響を与え始めたのです。授業の中で扱った単語や基本表現を必死に覚えようとメモを取る生徒、自主学習ノートに学習したことを使って文を書いてくる生徒が増えていきました。子供たちの成長を感じた瞬間です。学期末のアンケートでは「先生の英語が楽しいです。」「この活動がタメになったのもっとやって下さい。」という声もあり、嬉しくなりました。「先生になって良かった！」と心から思えた瞬間です。

5. 最後に

この1年は私にとって何もかも初めての1年でした。大変なこと、悩むことも多い1年でしたが、生徒から、そして先生方からたくさんの方のアドバイスを学び、成長できた1年だったように思います。今、教職課程の皆さんは、教職課程の単位取得や教員採用試験の勉強に力を入れている頃だと思います。教師はとても魅力的な仕事です。大変なことも多いですが、何より子ども達の成長を実感できる素晴らしい仕事です。教師として働く自分を今は想像できないかもしれませんが、ぜひその夢を追いかけて欲しいと思います。応援しています。



特別支援学校教育実習報告

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 水野響

二週間の教育実習を終え、特別支援教育の楽しさ・面白さを感じることができました。大学の講義の中で特別支援教育について学びましたが、特別支援学校ではどのようなことを行っているのか、研究授業の美術ではどのようなことをやろうかといった不安が多くありました。しかし、これらの不安は、生徒に全力で向き合う、大学や実習先の指導教官からのアドバイスを聞き入れることで少しずつ無くなるため、あまり心配しなくてもよいと今になって感じています。

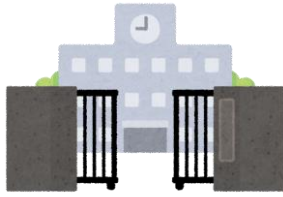
私が教育実習で大きく学んだことは二つあります。

一つ目は事前の教材研究の大切さです。私の実習校は、実習一週間前に研究授業の教科を教えて頂くことができたため、しっかりと教材研究をすることができました。教科が美術だと決まった際の私の心情は、何を教えたらよいのかわからないため、とても不安でした。そのため、実習指導教官にどのような授業をしたらよいのか相談をしました。そこで頂いたアドバイスとして、「教材研究をするのであれば頭の中で考えるのではなく、まず自分が行動して教材の楽しさ・面白さ、どのようなことが難しいのかを経験して理解することが重要」だと身をもって知りました。私自身、学生時代に美術の楽しさ・面白さを感じたことがなかったのですが、教材研究をすることで、色を使い自分の世界を表現することの魅力を感じることができました。まだまだ改良の余地はありますが、自分の今持っている力を発揮した授業をすることができました。大学の授業でも教材研究や生徒理解が大切だと教えていただいたことが、教育実習の中で自分の中に落とし込むことができました。

二つ目は生徒との距離感です。特別支援学校はクラスの人数が少ないため、一人ひとりの生徒と長時間接することができました。そのため、すぐに生徒と仲良くなることができました。しかし、緊張や急激な変化に対応することが苦手な生徒からは、避けられることがありました。私と関わるのが苦手な生徒に変化があったと感じた瞬間は、自立活動の時間です。体育終わりの自立活動の時間で、ボールを当てあう遊びをその生徒に仕掛けました。すると、今まで避けられていたことが嘘のように、笑顔で一緒に楽しんでくれました。私は、運動の持つ「人と人とが繋がる力」を大きく感じるすることができました。その日を境に、私を避けることがなくなり、二人で窓の外を見て会話をすることが増えました。生徒は、自分と楽しみを共感してくれる相手を常に求めているのではないかとこの出来事を通して感じました。

以上のように、教育実習を通してしか学べないことが多くあります。ミスや失敗を恐れることなく、生徒と関わり授業に挑戦することで、とても貴重な経験になります。私もこの実習の経験を活かして、四月からの教員生活に繋げていきたいです。





教育実習体験報告

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 羽生田都志

私は9月末から3週間、母校である長野県長野市の小学校で教育実習を行った。私の担当学年は2年生だった。私はこの教育実習を通して多くのことを経験し学ぶことができた。

まず授業については、難しいと改めて感じた。教育実習前に大学の講義で模擬授業などを行い自分の中ではある程度の準備はできていたつもりだったが、実習での初めての授業では教師中心の授業になってしまい、児童との意見交流などができなかつたり、児童の理解が追いついていないまま進めてしまったり、教材研究が不十分であつたり、当初指導案で想定していた授業時間よりも早く授業が進むなど多くの課題が出た。授業後などに担当の先生との反省会を行い、課題点をどう改善していけば良いか、教師としてどう児童と向き合っていくか、どのように教えていくかなどを話し、多くのことを学ぶことができた。実習の最後に行った授業ではこれまでの反省を生かしてやることができ、児童への声かけや授業時間、児童の興味を引く導入などができ、実習での最初の授業よりは成長することができた。しかしながら教材研究や指導方法などまだ課題があるので今後も考えていきたいと思った。また実習では他学年の授業などを見させてもらい、それぞれの学年の児童の様子や教師の授業の様子など見ることができ、授業後にはそれぞれの先生からお話を聞くことができ、多くのことを学ぶことができた。

次に校外学習について、実習期間中に学校近くの公園や地域の水泳施設での校外学習があり、私も同行して目的地までの安全管理などをして、担当の先生は道に広がって歩いている児童への注意や公園で転んで怪我をしてしまった児童への対応など多くのことに目を向けていたが、私は目の前の児童に対してしかできず、教師として児童の安全が第一に大切であるので広い視野で物事を見て迅速に対応していくことが大切であると感じた。

次に児童との関係について、実習当初は関係を築くことができず不安な面がありましたが、多くの児童が話しかけてくれて、休み時間にはたくさんの児童と会話をしたり、教室で折り紙を折ったり、校庭や体育館で遊んだり、実習最終日にはお別れ会を開いてくれて、じゃんけん大会などをして遊んだり、毎日楽しく過ごすことができました。実習では大変なことが多くありましたが、毎日の児童との交流など児童がいたから乗り越えることができ、児童との関係構築は大切であると感じた。

私は今回の教育実習を通して、教師という仕事はとても大変であると感じた。しかしその中でも児童との交流や児童の成長を見ることができ、児童が楽しく学校生活を送れるようにするなどやりがいのある仕事であると感じた。実習は毎日肉体的にも精神的にも大変ではあったが多くのことを得ることができた有意義な実習となった。今後は今回の教育実習で経験したこと、学んだことを活かしてやっていきたいと思う。





教職インターンシップⅠで学んだこと

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修2年 松岡奏翔

私は、教職インターンシップⅠに参加したことで講義だけでは知ることのできない教師としての大変さとやりがいを知ることができ、貴重な経験をすることができました。

インターンシップのなかで、子どもと関われるのも貴重ですが、私は授業後に行われた校内緑化などの活動を経験できたことが良かったと思っています。緑化活動では花壇の整備や花の準備、子どもには危ない用具を使った(木を切るなど)清掃やプール開きのための準備などの教師の見えない仕事を体験したことで授業以外の仕事の大変さを知ることができました。

活動後に振り返ってもやはり大変でしたが、子どもたちのためになっていると思えばやりがいのある仕事であり、大変であっても子どもたちのために頑張ることができることに気づきました。また、インターンシップ終了後の演習科目では、そのなかで気づいたことを話し合い各ゼミで発表することがあり、様々な意見を聞くことで私が気づいたことを深く知ることや考えることができ新たな発見もありました。総じて自己完結するのではなく、多くの人と共有することでよりたくさんのかんことを学び考えることができました。

学校行事にも参加することができ、子どもの頃には気づかなかった教師の仕事について知ることができました。運動会の種目や学芸会の演目などは教師が普段の仕事しながら考えることは大変であると言葉では分かっていましたが、実際に現場を見るのと言葉だけ知っているのでは、そのことへの考え方や捉え方が異なると感じました。当日も運営の仕事に参加したことで初めて気づくことが多く、教師になるうえでとても貴重な経験をすることができました。学校行事は子どもたちの成長や大切な思い出になるのでコロナ渦で難しくなりましたが、コロナが収まった頃には教師の業務過多で無くしてしまうのではなく、やり方を工夫して存続させていくことが大切であると考えます。

教職インターンシップⅠでは、そこでしか知ることのできない貴重な体験をたくさんすることができました。ここでの経験を教育実習やその後教師になったときに活かしていきたいと思います。





今後の予定

◆教職課程オリエンテーション

【新2年生】

美浜キャンパス 2023年3月23日(木) 4限～5限

東海キャンパス 2023年3月23日(木) 4限～5限

教職課程登録

仮登録：2023年3月23日(木)～27日(月)

本登録：2023年4月1日(土)～19日(水)

※教職課程オリエンテーションに出席後、仮登録(Googleフォーム入力)及び本登録(課程登録費振込+ Googleフォーム入力)を行ってください。

◆教育実習手続きオリエンテーション

【新2・3年生】

教育実習手続き(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼)
及び介護等体験説明

美浜キャンパス 2023年4月6日(木) 3限

東海キャンパス 2023年4月6日(木) 4限(新3年生のみ)

※3年次4年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新4年生】

教育実習手続き(中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前)及び介護等体験説明

美浜キャンパス 2023年4月6日(木) 4限

東海キャンパス 2023年4月6日(木) 5限

※教育実習I事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。

